

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果の公表

本校の平成30年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果を公表いたします。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、6年生は全国学力・学習状況調査、5年生は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、算数共にA問題、B問題という2種類の調査で成り立っています。おおむねA問題は「知識」に関する問題、B問題は「活用」に関する問題です。

また、今年度は、6年生において、3年に1度の理科調査（「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題）も実施されました。

結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H26 入学 現5年	66.8 (1.00)			70.8 (1.00)			
H25 入学 現6年	70.1 (1.14)	76 (1.07)	59 (1.09)	73.8 (1.13)	63 (1.00)	58 (1.14)	67 (1.10)
H30 正答率の全国比		(1.07)	(1.08)		(1.00)	(1.13)	(1.11)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段( )は、県平均を1としての比較。

◎「H30正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○5年は、国語、算数とも県平均とほぼ同じである。国語においては、書く領域は県平均よりも8%正答率が高く、指導の成果が表れている。一方、読む領域は、県平均よりも7%正答率が低く「おおむね達成」に達していない。特に長文の読み取りや漢字の読みに課題が残った。本文や問いの文章を理解できていないのではと推察する。算数においては、量と測定の領域に課題が残った。文章を読み取って、得た情報を活用する問題ができていない。一方で計算技能は十分達成レベルに達しており、また、図形における点の位置関係の問題の正答率は9割と高く、花まるタイムの効果だと考えられる。

○6年は、国語、算数、理科とも全国平均を大きく上回り、良好な結果である。無回答率もほぼ全国平均よりもかなり低く、前向きに取り組もうとする意欲の表れだと考える。国語においては、領域別に見ると、A・Bともに「話すこと・聞くこと」「書くこと」が全国平均よりもかなり高い。特に話し合いにおける質問の目的や意見の述べ方について理解し、正答率も十分達成のレベルである。課題としてあげるならば、主語述語の関係に注意して書く問題が全国平均より低いので、授業で言語や文法の選択問題に取り組む必要がある。算数においては、Aは全国平均とほぼ同じであったが、Bは全領域で全国平均を上回る良い成績であった。日ごろの授業の取組はもちろんだが、論理的思考を培うなぞペー授業の効果も伺える。特にA、Bともに図形や空間認知が問われる問題において正答率が高かった。日々の花まるタイムでの積み木遊び等の図形訓練の成果が伺える。課題としてあげるならば、B問題で棒グラフと帯グラフから分かることを読み取る問題や示された数量を関連づけ、根拠を明確にして説明する問題は全国平均を下回り、課題が見られる。理科においては土や石を積もらせる水の働きを問う問題は100%の正解率など知識を問う問題は全国平均よりかなり高い。科学的思考や概念が身に付いている。一方、知識を模型や理科における「ものづくり」などに適用することに課題が見られる。

○意識調査では、5・6年ともに、将来の夢や目標をもってる児童は90%以上、読書に日頃から親しんでいる児童も県平均より10%以上高い。生きる力や生涯学習につながる意欲醸成の高まりが感じられる。また、地域の行事に参加している児童も全国平均より10%高く、6年生にいたっては、地域や社会に起こっている問題に関心がある子は全国平均より30%多い。日頃から地域の方が学校教育に多く関わっていただいている成果があらわれている。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために全ての教科領域において、1時間の授業の中で児童にどんな力をつけなければならないのか指導目標を明確にする。児童が意欲的に学習にのぞむ姿勢をもたせるために、児童とつくり上げる「めあて」や「まとめ」の設定を意識した授業づくりを全職員で取り組む。
- 2 協働的学びにつながる「友だちタイム」において、以下の点を強化する。
  - ・自分の意見をはっきり言えるためには、情報を集め、根拠をはっきりさせる力が必要になってくる。問題の中に図や表があれば、それに、分かっている数字を書き込むなど、情報を収集するこつや分かったことや考えたことをノートに整理して書く力を育成することを意識して、授業に臨むようにする。
  - ・児童が思わず話し合いたくなるような学習課題の設定を工夫する。
  - ・論点がずれないように、何のために話し合っているのか、時々「めあて」に戻ることも意識する。
- 3 算数は単元によって、習熟度別に授業を行ったり、TT体制で行ったりすることで、一人一人の理解に応じたきめ細かな指導ができるようにする。
- 4 授業の終わりにふり返りの時間を設定し、自分の学びの深化や他者との協働的学びのよさなどに気付かせる。

### (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 意識調査より昨年度よりも一日に30分以上読書をしている児童が28%増えている。始業前の朝読書に取り組んでいる成果である。しかし、読む本の種類によっては物語をあまり読まない傾向にあるので、国語の読解力を付けさせるためにも「おすすめの本」を紹介するなどして物語にも興味をもつよう工夫していく。
- 2 朝の花まるタイム(計算力・空間認知力)や思考力を培うなぞペー授業の効果(算数Bの向上)も伺えた。さらに、コトカン(慣用句・ことわざ)音読では、意味まで読むなどして内容まで理解させる。
- 3 家庭学習については、全職員で共通理解を図り、発達段階に応じた学習時間を確保させる。内容や量については、ICT機器やドリル、プリント等を活用し、個別に補充指導をとりながら、基礎的・基本的な知識の定着を図る。調査の設問別到達状況において習得できていない内容や児童が苦手としている内容についても、日頃から繰り返し復習させていく。

また、現在取り組んでいる思考力向上をねらった週末課題については、基礎・基本の復習問題を加えたり児童の考えた問題を取り上げたりするなど、内容の改善を図り、発展的な学習と基礎・基本の両面からの習得をねらった取り組みを実施する。
- 4 家庭学習強化週間を年3回設定し、自主学習の良い例と家庭学習に意欲的に取り組んだ児童を紹介することで自主学習を推進していく。高学年は、計画を立てて自主学習に取り組ませるなど、タイムマネジメントを視野においた指導をしていく。
- 5 児童に、今回の調査結果に見られる成果と課題を知らせ、学力向上に向けて、今後どんなことに気をつけて学習に取り組めばよいか、自分の言葉で振り返りをさせる。
- 6 地域の行事に参加している児童も全国平均より10%高く、6年生にいたっては、地域や社会に起こっている問題に関心がある子は全国平均より30%多いことから、家庭や地域の方のこれまでの学校教育への協力の賜である。今度は、今ある行事の範囲内で、地域の方に貢献できることを何かしていこうという取り組みをすることで、達成感を高める。全校朝会や保護者会などでも、このような良いところも紹介することで、児童の自己肯定感や保護者の意識をよりを高めていく。